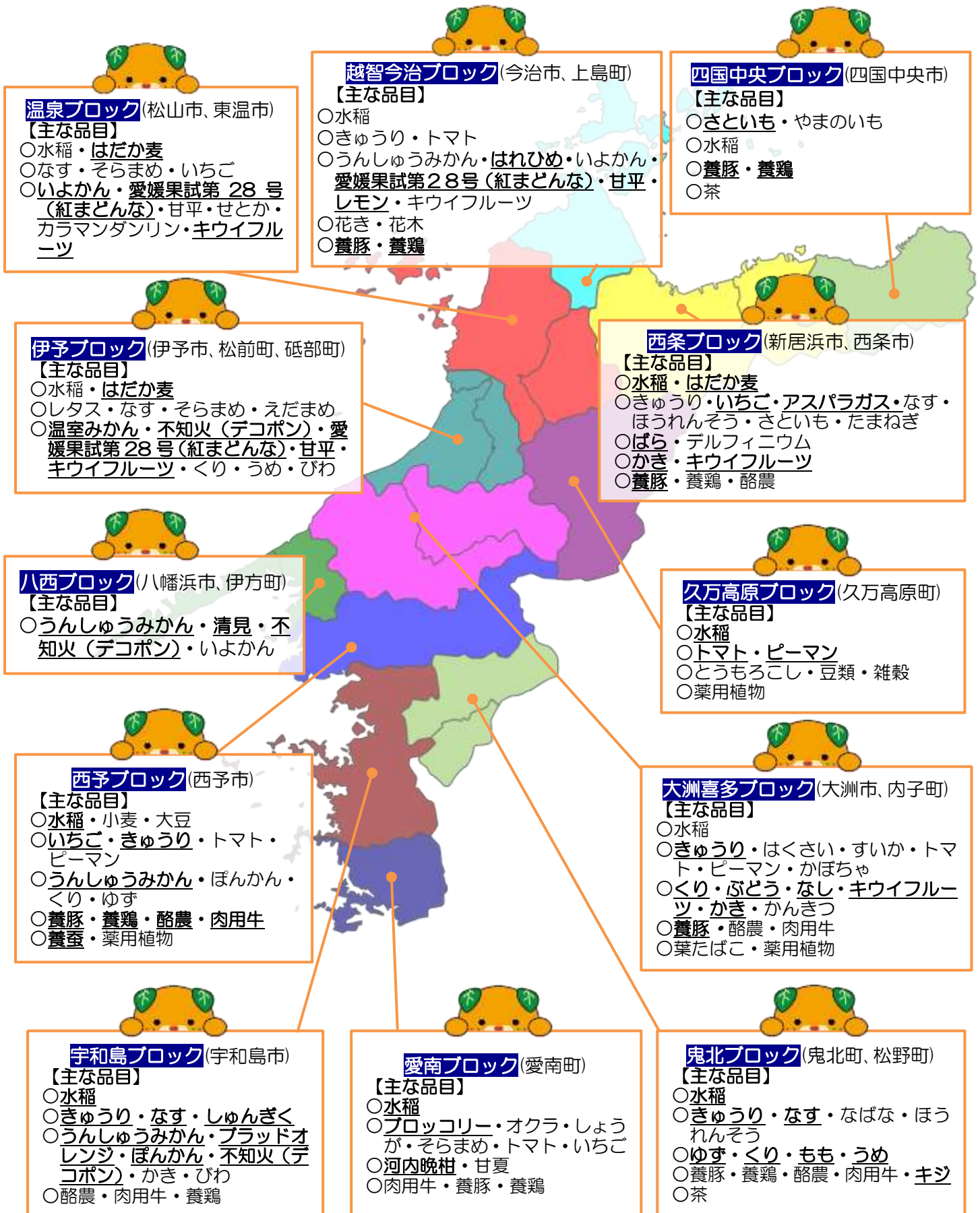


## 【第4】愛顔あふれるえひめ農業・農村を実現するために（地域版）

地域版では、県内全域を12ブロックに分けて、地域の実情に応じた農業振興及び農村活性化に向けた今後5年間の主な取組（目指すべき方向性）をお示しします。



※下線部は地域の目玉品目

～地域ブロック版(推進項目)～

【四国中央ブロック】(P46～47)

- 地域農業を支える担い手の確保・育成
- 地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり
- 地域の食文化と一体となった6次産業化サポートセンターの活用
- 水田ほ場整備の推進による農地集積
- 畜産の6次産業化支援による経営基盤の強化

【西条ブロック】(P48～49)

- 地域農業を支える担い手の確保・育成
- 地域を元気にし、農業を支える仕組みづくり
- 地域資源を活用した農業再生
- 消費者・実需者から指名される野菜・花き産地づくり
- 全国有数のかき産地で新たなブランド品づくり
- キウイフルーツの適地・適作と契約生産による経営安定
- 水田農業の推進と農地・水の保全
- 水田ほ場整備の推進による農地集積
- 耕畜連携をさらに強めた畜産物のブランド化

【越智今治ブロック】(P50～51)

- 次代を担う農業者等の確保と育成
- 地域農業を支える組織育成による豊かな農村地域の創造
- 地域資源や地域農産物を活用した6次産業化の推進
- 競争力ある生産性の高い産地の育成
- ブランド化による販売力の強化

【温泉ブロック】(P52～53)

- 地域の農業・農村を支える多様な担い手の確保・育成
- 優良な農地を次世代に引き継ぐための農地の集積や鳥獣害対策
- 立地条件を活かした都市と農村の交流による地域活性化
- 地域農業を支える生産基盤の整備
- かんきつなど果樹のトップブランド産地づくり
- 「はだか麦」産地の拡大と水稻高品質生産の推進
- 地域特産野菜・花きの生産推進と農家所得の向上

【伊予ブロック】(P54～55)

- 新規就農者の確保・育成
- 集落営農組織・農業生産法人の育成とネットワーク活動の支援
- 女性農業者の経営・社会参画の促進
- 農業・農村のよさのPR
- 農業・農村の基盤整備と多面的機能の維持・発揮
- 競争力のある個性的産地の育成
- 「はだか麦」産地の拡大とブランド化

【久万高原ブロック】(P56～57)

- 多様な新規就農者の確保と育成及び町外からの就農移住促進
- 6次産業化の推進
- 消費者との交流促進
- 生産基盤の整備と保安全管理
- 野菜主力品目の施設整備推進、産地維持の強化
- 安全・安心な農産物栽培の推進
- 高齢化に対応した品目栽培の推進
- 地域資源を活用した畜産業の振興

【大洲喜多ブロック】(P58～59)

- 多様な農産物で所得のとれる産地づくり
- 県内一の夏秋きゅうりの生産拡大
- のばせ、日本一のくり産地
- 県内一の養豚産地維持拡大
- 農作業支援体制整備及び地域に貢献する人材育成
- 農地有効活用による地域の活性化
- 多彩な農産物を活かした加工商品販売による地域振興
- 農と自然や歴史・文化が融合した生活空間の保全と都市交流

【八西ブロック】(P60～61)

- みかん生産日本一の産地の維持・発展
- 次代を担う農業者の育成
- 西宇和みかん支援隊による担い手・労働力の確保
- 6次産業化や農商工連携の推進による地域振興

【西予ブロック】(P62～63)

- 多様な水田農業の推進
- 魅力的なかんきつ産地づくり
- 県内一の畜産地帯の維持・発展
- 野菜の振興、いちご・きゅうり産地づくりの強化
- 中山間地の果樹振興、くり・ゆず産地づくりの強化
- 鳥獣害対策と薬草の産地化
- 伊予生系の産地復活プロジェクト
- 多様な担い手の育成・支援

【宇和島ブロック】(P64～65)

- かんきつの周年出荷体制(露地栽培)の確立
- 特色ある産地づくりによる経営の安定化
- 担い手の農地維持による経営の安定化
- 新規就農者の早期定着と新たな担い手の創出
- 農地の保全と基盤整備の推進

【鬼北ブロック】(P66～67)

- 次世代につなぐ優良農地の保全
- 加工用農産物の産地育成によるブランド力の向上
- 地域の優れた特産品を守り育てる
- 競争力のある農業経営の支援
- 多様な担い手の育成
- 地域資源を活かした都市との交流推進

【愛南ブロック】(P68～69)

- 日本一の生産量を誇る河内晩柑のさらなる産地強化
- 品質向上と長期出荷によるブロッコリーのブランド力向上
- 特徴ある農業経営の支援
- 意欲ある担い手の育成
- グリーン・ツーリズム活動の積極的な推進
- 生産基盤整備による特産品の産地強化



## (1) 四国中央ブロック (四国中央市)

### ～地域の紹介～

#### ○地域にある産地

四国中央ブロック(四国中央市)の農業は、燧灘を望む東西25kmの海岸線の西部地域を中心として、干拓地や基盤整備水田で「水稻」・「さといも」・「やまのいも」が水田輪作による土地利用型作物として栽培され、法皇山脈北部の嶺北地域の緩傾斜地では「かんきつ」、「キウイフルーツ」、「赤石五葉松」(土居町関川地区)の生産、「採卵鶏」、「養豚」の飼養が盛んで、法皇山脈南部の嶺南地域の山間傾斜地では、冷涼な気候を生かした「茶」、「シキミ」等の花木の生産が行われています。

#### ○他の産地に負けないもの

約400年前から栽培されている「さといも」は、「日本三大局地風やまじ風」に強い作物として定着し、平成26年産の10a当たり生産量は日本一となりました。平成20年に県農林水産研究所が育成した愛媛農試V2号(商標名:伊予美人)は、多収量、高品質、丸くて、良質の食感で京阪神を中心に関東・中国地方へ販売されています。栽培方法は、「全期間マルチ栽培法」(生育期間を通じて畝をマルチで被覆する栽培法)を認定農業者、関係機関・団体関係者らが開発・普及し、従来の栽培よりも4割の労働時間が削減でき、栽培面積を広げる農業者が育ってきました。



愛媛農試V2号(商標名:伊予美人)



「サトイモセミナー」で最新技術を公開

### ～地域農業を支える担い手の確保・育成を進めます～

地域農業を維持・発展させるため、四国中央市農業振興センターを中心としてチームを編成し、青年をはじめ女性や中高年、農業参入企業等の多様な新規就農者を確保するとともに、就農後には適切な支援を継続することで、農業に定着する仕組みづくりを進め、地域農業を支える農業者を育てます。

※四国中央市農業振興センターは農業振興課、農林水産課、農業委員会事務局、JAうま宮農経済部、東予地方局産業振興課地域農業室で構成されています。

### ～地域を元気にし農業を支える仕組みづくりを進めます～

四国中央市農業振興センターを構成する関係機関・団体で地域活性化の企画・検討会を実施し、地域農業の活性化を図ります。

#### ○「伊予美人」の販売戦略

「えひめの味」を全国に発信するため、販売先を京阪神市場に加え関東や中国地方など18市場へと拡大し、各出荷市場等で500食の大鍋で「いもたき試食会」を開催するなど「えひめの“さといも”の味」を積極的にPRして「伊予美人」の高品質・良食味の認知度を消費者に高めています。

#### ○地産地消活動

四国中央市は、平成17年12月に「食育」に根ざした「地産地消」を推進する都市宣言を行い、市内全域の小・中学校の学校給食米は、全て地場産を使用し、全てエコえひめ農産物の認証を受け、「うまそだち」のブランド名で、販売しています。

さらに、地元野菜や果物を供給し、給食時に生産地域や生産者を紹介するなど、地域内の繋がりを高めます。

#### ○特産茶

嶺南地域(新宮町、金砂町、富郷町)では、「やぶきた」の茶園が広がり、県内有数の茶産地となっています。昭和60年頃から地域全体が農薬不使用に取り組み、安全・安心で香り高い茶を供給しています。かぶせ茶の抹茶を利用したスイーツ・菓子加工品を道の駅などで人気商品として確立します。

## ～地域の食文化と一体となった6次産業化サポートセンターの活用に取り組みます～

「さといも」と地元の豊かな食材による「いもたき」が秋の風物詩となっており、9月に市内の河川敷では、「うまの味」を求める県内外のリピーターで賑わっています。

地産地消、地域活性化の観点から、JA女性部や商工会などとの連携・協力を一層強め、地域の食文化を市民と共に広げ「いもたき」の町づくりを推し進めます。

また、さといも親芋の粉末化のマニュアルができたことから、新たな商品開発に関係者の夢が膨らみ、平成27年11月にJAうま6次化産業化サポートセンターが完成し、サトイモパウダーを活用したうどん等新たな商品開発を加速し起業家の育成をはじめ、特産品の開発・普及を目指します。



サトイモ親芋パウダーでうどんを開発



学校給食米「うまそだち」(JAうま)の田植え

## ～水田ほ場整備を推進して農地集積を図ります～

関川北部地域に広がるほ場整備済み水田では、「水稻」・「さといも」が栽培され、特に、地域特産物の「さといも」は、定植時の乾田化と栽培期間中のかんがい水の確保が重要です。

当地域は、嶺南地域の水源（柳瀬ダム、新宮ダム、富郷ダム）からの水路や、小規模なため池の整備により安定した用水が確保され、水田農業が行われています。

また、関川下流地域の水田の基盤整備を契機に新たな整備の要望も見られ、基盤整備や営農環境整備等を推進して、「さといも」・「水稻」等の省力安定生産に努めるとともに、担い手への農地集積を図ります。

## ～畜産の6次産業化を支援して経営基盤の強化を進めます～

当地域の畜産は、農業産出額の約40%を占めており、生産現場が消費地に近い利点から、卵などの畜産物は自動販売機利用等の直販比率が高く、農業者の重要な収益基盤になっています。

また、養鶏、養豚経営者の中には、特色ある飼養管理のもとで生産した畜産物の、直営レストランでの販売の他、加工場や惣菜販売店舗を活用する等、様々な形で消費者に販売しており、創意工夫した畜産物の価値を高める商品の開発や新たな販路の開拓に取り組んでいる方もいます。このように農業者自らが、地産地消型で安全安心な畜産物の生産及びその加工・販売を一体的に行う6次産業化の取組を支援し、経営基盤の強化を図ります。



四国中央市  
マスコットキャラクター  
「しこちゅ～」

四国中央市利用許諾第27-31号

## 良食味・高品質で何より旨い「伊予美人」

四国中央市をはじめ、東予地域で産地化に取り組んでいる「さといも」の新品種「愛媛農試V2号」(伊予美人)は、えひめ生まれの、多収・大きくて丸い孫芋が多く・白く、きめ細かな肉質で、しっとりもっちりとした食感と優しい甘さが特徴です。

9月の中旬から収穫が始まり、年末年始の和食にはかかせない食材として人気者です。さらに、「伊予美人」の細かな肉質は、和食・洋食の食材としてベストマッチなんですよ。



「愛媛農試V2号」(伊予美人)

## (2) 西条ブロック（新居浜市、西条市）

### ～地域の紹介～

#### ○地域にある産地

西条ブロック（新居浜市、西条市）の道前平野や燧灘の干拓地では、水稻、はだか麦、大豆、飼料等の土地利用型作物と、「きゅうり」、「いちご」、「アスパラガス」、「ほうれんそう」、「さといも」、「たまねぎ」等の野菜や、「ばら」、「デルフィニウム」等の花きを組み合わせた複合経営が盛んです。

また、石鎚・高縄山系麓の中山間地やそれに続く扇状地では、「かき」、「キウイフルーツ」等の果樹や、養豚、酪農、養鶏等の畜産など、立地条件に応じた多種・多様な農業が営まれています。

#### ○他の産地に負けないもの

生産量日本一のはだか麦やスプレー咲きの「ばら」、全国トップクラスのブランド力を誇る「春の七草」、伝統野菜の「絹かわなす（丸なす）」や「七福芋（白いも）」、全国に先駆けて産地化を進めている「太天（かき）」など自慢の農産物があります。



絹かわなす（丸なす）

### ～地域農業を支える担い手の確保・育成を進めます～

西条ブロックは県を代表する製造業集積地であることから、地域農業を維持・発展させるため関係機関・団体が連携し、青年をはじめ、企業退職者等中高年や女性等多様な新規就農者を確保し、就農後の適切な支援で農業に定着する仕組みづくりを進めるとともに、企業の農業参入等の支援を行い、地域農業を支えるプロの農業者を育てます。

### ～地域を元気にし、農業を支える仕組みづくりを進めます～

既存の集落営農組織や650haの国営圃場整備が予定されている道前平野地区等に対し、農業機械のオペレーターやリーダーの確保・育成とともに、共同機械の利用拡大や収益性の高い作物の導入、農地集積の推進、鳥獣害対策等を支援し、集落の荒廃農地の解消と経営基盤の強化を進め、さらに、集落営農の活動を安定的・永続的に継続するために、財産が持て、各種支援制度が受けやすい等の特典のある法人化への取組を進めます。



農業機械オペレーター研修

### ～地域資源を活用した農業再生に取り組みます～

地域の農産物を活用して、6次産業化に取り組む農業者には、商談会等への参画や補助事業の活用、専門家によるサポートで経営能力の向上を進めます。また、若い女性農業者のネットワーク化を進めるとともに、東予の地域性を生かした女性農業者の活躍の場を広げます。

「石鎚黒茶」などの伝統技術を生かした商品開発や地域特産物の発掘に加え、女性目線での6次産業化の推進により、新たな地域農業の再生に取り組みます。

### ～消費者・実需者から指名される野菜・花き産地を目指します～

「きゅうり」、「いちご」、「アスパラガス」等の施設野菜では、化学農薬だけに頼らない病害虫対策を推進して、安全・安心な新鮮野菜を消費者に提供します。「ほうれんそう」「さといも」「たまねぎ」等の露地野菜は、農作業の機械化を進めて栽培管理の効率化を図るとともに、加工・業務用野菜は実需者のニーズに対応した品質・規格生産で信頼関係を築きます。

生産量が日本一のスプレー咲きの「ばら」、県内一の「デルフィニウム」は、消費者のニーズに応じた品種の選定と生産技術の向上を図って産地の維持・発展に努めます。



デルフィニウム「さくらひめ」

### ～全国有数のかき産地で新たなブランド品づくりに取り組みます～

周桑地区では、日本一の生産量を誇る「愛宕柿」や「横野柿」を中心にかきの一大産地を形成しており、青果品は元より「あんぼ柿（干し柿）」等の製造・販売も行っています。

近年は、大果で食味の優れるかきの新品種「太天」の産地化・ブランド化を進めています。そして、特に品質の良い果実は「黄金福嘉来（おうごんふくがき）」のブランド名で、御歳暮等の高級贈答品として百貨店等を通じて販売しており、更なる販路の開拓にも取り組みます。



新たな産地化を目指す「太天」

### ～キウイフルーツの適地・適作と契約生産で経営安定を図ります～

周桑地区の扇状地は、緩傾斜で水はけが良く、「キウイフルーツ」の栽培に適しています。

「ハイワード」や「レインボーレッド」はJA 共販や直販、「ゼスプリゴールド」はゼスプリ社との契約生産で安定した収入の確保を図ります。

また、耐病性に優れた新品種の導入を推進して、生産体制を強化します。



主力品種のゼスプリゴールド

### ～水田農業の推進と農地・水の保全に努めます～

道前平野や燧灘の干拓地では、農地集積による水稻やはだか麦の大規模経営や集落営農等による転作大豆の生産を振興するとともに、石鎚山系に由来する豊富な水資源の保全や、それを生かした安全・安心で食味の良い米づくりを推進して、水田農業を維持・発展させます。

### ～水田ほ場整備を推進して農地集積を図ります～

県内の約 1/4 の水田が広がる西条ブロックでは、より効率的で生産性の高い水田農業を目指して、現在 8 地区で県営のほ場整備を実施中です。

また、中山川左岸区域（道前平野地区）の 650ha では国営のほ場整備事業を実施するとともに、排水対策を推進して、はだか麦、大豆、露地野菜等の安定生産や担い手への農地集積を図ります。



ほ場整備が進む道前平野

### ～耕畜連携をさらに強め、畜産物のブランド化を進めます～

西条ブロックでは、県内でいち早く稲発酵粗飼料の利用拡大に取り組み、また、飼料用米も養豚・養鶏農家での需要が増えつつあるので、さらに耕畜連携による自給飼料の生産基盤に立脚した、地域循環型の畜産経営の確立を図ります。また、「愛媛甘とろ豚」や「媛っこ地鶏」、「愛媛あかね和牛」等のブランド畜産物生産や 6 次産業化の取組を支援し、足腰の強い畜産経営体を育成します。

### 超デカくて美味しいかき新品種「太天」

周桑地区で産地化に取り組んでいるかきの新品種「太天」は、1 個の重さが 600 g 以上にもなる、かきの中でも最大級の渋柿です。JA で渋抜きをしてから出荷されますが、とても甘く、ジューシーで繊細な食感も特徴です。まさに「見てびっくり、食べてびっくり」の全く新しい果物です。

年末の贈答用としてとても人気が高く、「福嘉来（ふくがき）」という商標を登録してブランド化を図っています。消費者の皆さんにはぜひ食べていただき、2 度びっくりを体験してくださいね。



### (3) 越智今治ブロック (今治市、上島町)

#### ～地域の紹介～

##### ○主な産品

水稻、うんしゅうみかん、いよかん、はれひめ、レモン、キウイフルーツ、きゅうり、トマト、花き・花木、養豚など

##### ○地域の特徴

- ・主要品目の「かんきつ」は、多様な品種の組み合わせにより、10～5月の長期間、高品質果実を供給することが可能です。
- ・島嶼部では豊かな地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムが定着し、都市との交流が盛んに行われています。
- ・全国有数の直売所「[さいさいきて屋](#)」は、生産者と消費者との交流拠点として、管内の農業振興に大きく貢献しています。
- ・今治市では「[食と農のまちづくり条例](#)」が制定されるなど、地産地消、食育、有機農業を柱とした食の安全・安心に対する意識が高く、地元産農作物の学校給食への提供を積極的に行っています。
- ・上島町では、「NPO法人豊かな食の島岩城農村塾」を核として、移住・定住施策を推進しており、近年、U・Iターン就農者が増加しています。
- ・越智今治地域は、島嶼部を中心に年間降水量が少ないことから、県内の約3割に及ぶ大小様々なため池が点在しており、地域の貴重な水源となっています。



豊かな自然と風光明媚な景観に恵まれた越智・今治地域

#### ～次代を担う農業者等の確保と育成に取り組みます～

○農業を目指す人材を県内外から積極的に掘り起し、「ファーム咲創」や先進農家等での研修機能の充実、インターン事業や移住・定住施設の活用等を通じて意欲ある農業者を確保します。

○労働力を補完するJAの「心耕隊」や人材派遣システムの活用により、担い手の経営規模の維持拡大や体質強化に取り組みます。

○農業者の組織活動や経営改善支援を通じて、魅力とやりがいのある農業の実現を図るとともに、「[saisaiKIDS 倶楽部](#)」や「学校有機農園」での体験、学校給食活動、農業関連高校との連携等により、次世代への農業の良さのアピールにも積極的に取り組みます。

○女性認定農業者や生活研究グループ、若手女性等の組織活動やネットワーク化の促進、食文化の伝承や地産地消・食育活動の活性化等を通じて、アイデアや行動力を活かせる人材を育成し、男女が共に、いきいきと活躍できる農村社会の実現を目指します。



若手女性を対象にした農業機械研修

#### ～地域農業を支える組織を育成し、豊かな農村地域を創造します～

○集落営農組織の経営発展を図るため、「きゅうり」や「たまねぎ」などの高収益品目や飼料用米などの新規需要米の導入、耕畜連携等により、「水田フル活用」を先導する組織の育成、農地中間管理事業を活用した農地集積等を推進します。

○(有)こんばらや(農)たちばな等の集落営農法人間の連携強化や法人化研修の開催等を通じ、新たな集落営農組織の育成を進め、優良農地の確保と荒廃農地の拡大抑制に取り組みます。

○地域ぐるみの鳥獣害対策を進めるため、リーダー育成や狩猟免許取得者の確保等を図るとともに、イノシシの他、被害が拡大しているサル、シカ、カラスの対策と併せて、「しまなみイノシシ活用隊」等の活動を通じたジビエ食文化の普及等により、「守る」「獲る」「活用する」の総合的な対策を推進します。

○多面的機能支払や中山間地域等直接支払の制度を活用して地域ぐるみで行う協働活動を支援し、農村の多面的機能の増進を図ります。



新規需要米(飼料用米)の導入による水田フル活用

### ～地域資源や地域農産物を活用した6次産業化を推進します～

- 「[しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会](#)」等の活動支援を通じて、都市との「人」「物」「心」の交流の活性化に取り組むとともに、滞在型への移行や修学旅行の誘致、海外客の受け入れ、さらには、サイクリストとの交流にも積極的にチャレンジします。
- 「愛媛6次産業化サポートセンター」と連携し、「レモン」、「甘長とうがらし」、「まこもたけ」、「はだか麦」、「米粉」等の特産品やシシ肉などの地域資源を活かした商品開発を進めるとともに、直売所等での販売や県内外への情報発信、販路拡大を支援し、6次産業化の定着を図ります。



シシ肉を利用した加工品

### ～競争力ある生産性の高い産地を育成します～

- いちご「[紅い雫](#)」、かんきつ「[甘平](#)」、「[愛媛果試第28号\(紅まどんな\)](#)」、花き「[さくらひめ](#)」等、新しい品種の導入普及を図り、産地の活性化に努めます。
- かんきつ園でのマルドリ方式による栽培管理など新しい技術の導入やICTの活用、施設化等による高品質生産で、生産性の高い産地を育成します。
- 良食味米の生産推進や新規需要米の取組等を通じて、水田のフル活用を図り、水田農業の維持と経営の安定を図ります。
- エコえひめによる「きゅうり」や「トマト」、「レモン」等の生産やIPM（総合的病害虫・雑草管理）技術等の普及により環境保全型農業を推進し、商品の付加価値を高めます。
- 「[仙高ポーク](#)」、「[ふれ愛・媛ポーク](#)」、「[媛っこ地鶏](#)」など、山間の自然豊かでストレスの少ない環境の中で、健康な家畜を生産します。
- 優良農地の保全や新たな園地造成及び農道、水路、ため池等の農業用施設の維持管理を適切に行うとともに、限られた用水を有効に活用できるかんきつ園での点滴かんがい方式の整備等にも取り組み、生産基盤の維持・強化を図ります。
- 地域の貴重な水瓶であるため池については、計画的な改修やハザードマップの作成などにより、防災・減災力の向上を図り、農業用水の安定供給と安全・安心に暮らせる農村の整備に努めます。



地域特産かんきつ「はれひめ」のマルドリ栽培

### ～おちいまぱりブランドで販売力の強化を目指します～

- 地域特産「[はれひめ](#)」のブランド品である「[瀬戸の晴れ姫](#)」をはじめ、「[愛媛Queen \(クィーン\)スプラッシュ](#)」(甘平)、「[紅まどんな](#)」([愛媛果試第28号](#))等の高品質・安定生産により、銘柄産地としての「おちいまぱりブランド」を高めます。
- 「[たまみ](#)」(かんきつ)、「[青いレモン](#)」、「[寒じめあまおとめ](#)」、「[しまなみ春とまと](#)」等、個性的商材の生産拡大と有利販売・ブランド化を目指します。
- 花き・花木では「[ビブルナム・ティナス](#)」と「[ピットスポラム](#)」の産地化を進めるとともに、ブランドである「[らめらいと](#)」の販路拡大を図るなど、「おちいまぱりの花」ブランド産地の再構築を図ります。
- 「[レモンポーク](#)」や「[愛媛あかね和牛](#)」など地元特産物を利用した飼料で育てた家畜の生産を推進し、地域ブランド力を強化します。
- ライスセンターやかんきつ集出荷施設の整備、「[さといも](#)」での広域選果等により、農産物の選果・流通体系の効率化を図り、多様な販売に対応した産地を目指します。



新たな産地化、ブランド化を目指す「ビブルナム・ティナス」

### 進化する「しまなみグリーン・ツーリズム」

しまなみグリーン・ツーリズム協議会は平成12年に組織され、「地域の資源や景観等をPRし、農業の活性化を図ろう」と、女性が中心となり頑張っています。26年度から取組を始めた台湾からの修学旅行の受け入れにおいては、外国語を話せない島のおばちゃん達が、筆談やボディランゲージを駆使して、生き生きとした笑顔で対応しています。また、サイクリングの聖地として、今後、多くのサイクリストや観光客が訪れることが期待されています。皆様も、しまなみ地域の自然と人情に触れてみてはいかがでしょうか。是非、お越しください。お待ちしておりますね。





## (4) 温泉ブロック (松山市、東温市)

### ～地域の紹介～

温泉ブロック(松山市、東温市)は、県都松山市と道後平野に連なる中山間地域から島嶼部にかけて広がっており、その気候風土を生かした多彩な農作物による産地を形成しています。

なかでも、島嶼部から沿岸地域にかけては「かんきつ」の栽培が盛んで、「宮内伊予柑」や「カラ(カラマンダリン)」、県育成オリジナル品種の「愛媛果試第28号(紅まどんな)」及び「甘平」は市場での評価も高く、日本一の中晩柑産地を形成しています。野菜では、「松山長なす」など地域ブランド品目の産地強化や、県育成のオリジナル有望品種のいちご「あまおとめ」及び「紅い雫」の地域への定着を進め、魅力ある産地づくりに取り組んでいます。

### ～地域の農業・農村を支える多様な担い手の確保・育成に取り組めます～

○次代を担う農業者として新規就農者や農業参入企業等を確保・育成するため、関係機関が連携した研修制度や受入れ体制の充実・強化に取り組めます。

○女性の農業経営への参画を促進し、起業活動等を支援するとともに、女性農業者のネットワーク組織の充実・強化に取り組めます。



女性農業者による親子ピザ作り体験

### ～優良な農地を次世代に引き継ぐため、農地の集積や鳥獣害対策に努めます～

○集落で今後の農地の利活用等について話し合い、集落営農組織の育成や担い手への農地の集積を図るとともに、農繁期の労働力確保を図るため、農作業支援者のあっせん制度の強化や福祉分野との連携に取り組めます。

○鳥獣害対策は、ICTの活用等の新技術も導入しながら農業者がハンターや地域住民と集落ぐるみで連携して取り組むとともに、獣肉の処理加工施設の設置検討やネットワークの構築を推進します。



鳥獣害対策の新技術研修会

### ～立地条件を活かした都市と農村の交流による地域活性化に取り組めます～

○都市近郊で道後温泉などの観光客や直売所が多い立地条件を生かし、地域資源を活用した体験交流会や農家レストランなどのグリーン・ツーリズムや6次産業化を推進し、都市と農村の交流人口の拡大や農家所得の向上に取り組めます。

○島嶼部や中山間地域では、[地域おこし協力隊](#)やNPO法人などとも連携を図り、美しい風景や美味しい農産物の魅力をSNS等により情報発信し、地域のブランド化と移住・定住促進などによる地域活性化に取り組めます。



棚田で都市住民との田植え交流会

### ～生産基盤を整え地域を支えます～

○農業に欠かすことのできない地域の貴重な資源である「農地」と「水」を保全する多面的機能支払や中山間地域等直接支払制度の取組を推進します。

○水田や樹園地の生産性の向上を図るため、ほ場や農道、ため池や水路などのかんがい施設の整備とともに、樹園地の再編整備に取り組めます。



生産性の向上を図るほ場の整備

### ～かんきつなどの果樹のトップブランド産地を目指します～

- 当地域は「宮内伊予柑」、「カラ」をはじめとした「かんきつ」の主要な産地となっており、今後は県オリジナル品種の「[愛媛果試第28号（紅まどんな）](#)」や「[甘平](#)」を中心に生産の拡大を進めます。また、消費者から信頼される品質の確保や生産農家の所得向上を図るため、施設化の推進やコスト削減対策など、高品質安定生産技術の確立を推進します。
- 安全安心な「かんきつ」を生産するとともに、消費者の嗜好を踏まえた集出荷や販売など、年間を通じた流通体制を再構築し、さらなるブランド力の強化に努めます。
- 「キウイフルーツ」では、県内の主要産地として、新品種の導入をはじめとした産地の強化に取り組みます。



愛媛果試第28号  
(紅まどんな)

### ～「はだか麦」産地の拡大と水稻高品質生産に努めます～

- 愛媛県が日本一の生産量を誇る「はだか麦」は、当地域が県内有数の産地となっており、今後も品質向上と産地の拡大に努めます。
- 水稻では、近年の温暖化による品質低下が問題となっていることから、高温耐性品種を導入し、品質の安定と良食味米の生産を進めるとともに、水田の生産性向上を図るため、「はだか麦」や主食用以外の米についても、生産を推進します。



はだか麦

### ～地域特産野菜・花きの生産推進と農家所得の向上を目指します～

- 野菜では、「松山長なす」や「そらまめ」など特色ある品目のほか、県内の主要産地であるいちごでは、県オリジナル品種「[あまおとめ](#)」及び「[紅い雫](#)」の産地化を推進します。
- 農業従事者の高齢化に対応した省力化技術や安心安全な農産物生産のため、[特別栽培農産物「エコえひめ」](#)等の生産を推進します。
- 花きでは、従来の切り花と切枝類を中心に生産を推進します。



紅い雫



松山長なす



そらまめ  
(松山一寸)



キウイフルーツ



カラ  
(カラマンダリン)



せとか

### 愛媛果試第28号（紅まどんな）について

「紅まどんな」は、独特のゼリーのような食感と香りが特徴で、高い評価を得ています。

当地域では、施設化による品質向上や生産面積の拡大に取り組み、地域を代表するブランド産品として、県内一の産地となっているんですよ。



## (5) 伊予ブロック (伊予市、松前町、砥部町)

### ～地域の紹介～

伊予ブロック（伊予市、松前町、砥部町）は、水田を中心とした平坦部から果樹等の中山間地を含む多様な地帯で構成されており、それぞれが特色ある産地を形成しています。

水田地域では、県内有数の「はだか麦」をはじめ、「レタス」、「ナス」、「そらまめ」、「えだまめ」などの栽培が盛んです。

中山間地域では、「温室みかん」、「不知火（デコポン）」、「[愛媛果試第28号（紅まどんな）](#)」、「[甘平](#)」などが栽培されており、県内有数のかんきつ産地を形成しています。特に、「キウイフルーツ」は県内最大の産地となっています。また、「夏秋トマト」、「中山栗」、「唐川びわ」、「七折小梅」は、地域の特産品として高い評価を得ています。



愛媛果試第28号  
（紅まどんな）



中山栗



七折小梅



レタス



キウイフルーツ

### ～新規就農者の確保・育成に努めます～

- 農家子弟、他産業従事者、中高年齢者等の就農希望者に対して情報提供や就農相談活動を進め、新規就農者の確保に努めます。
- 新規就農者には、就農支援制度等各種事業の啓発や青年農業者組織への加入を進め、仲間づくりや栽培技術などの資質の向上を支援し、早期定着を図ります。
- 伊予市農業振興センターのワンストップ支援体制を核として、新規就農者の確保・育成を図ります。（P41参照）



新規就農者勉強会

### ～集落営農組織・農業生産法人の育成とネットワーク活動を支援します～

- 高齢化・兼業化等により、個々の農家では営農の維持が困難と見込まれる地域を対象に、農業機械の共同利用や農作業の受託に取り組む集落営農組織の育成に取り組みます。
- 人と農地の問題を解決するため、「[人・農地プラン](#)」の作成や見直しを支援するとともに、集落営農に関心の高い集落を対象に、集落営農の組織化や法人化を支援し、農地の集積や作業受託面積の拡大等を推進します。
- 集落営農ネットワーク組織「伊予地区集落営農組織等連絡協議会」の活動を通してリーダー育成、法人化等を支援します。



集落リーダー研修会

※伊予地区集落営農組織等連絡協議会：伊予地区内の集落営農組織等がお互いの組織連携・情報交換を行うことを目的に平成26年3月に設立。

### ～女性農業者の経営・社会参画の促進に努めます～

- 男女共同参画社会づくりを推進するため、研修会や学習会を通じて女性の農業経営への参画を促進し、起業家活動等を支援します。
- 「あいネットワーク」会員の女性農業者等が女子力を発揮した新たな特産品づくりや地域農業・農村の魅力発信を支援し、地域の活性化を図ります。

※「あいネットワーク」：女性認定農業者及び認定農業者のパートナーの組織



高校生との新たな特産品の開発

### ～農業・農村の良さのPR～

○都市と農村の交流による地域活性化に取り組むため、伊予市及び砥部町のグリーン・ツーリズム推進協議会の活動、体験イベントの開催、体験メニューの整備などを支援するほか、魅力あるイベント等による交流人口の増加を図り、農業や農村の良さに関するPRに努めます。

＜交流イベントの紹介＞



【4月】  
いよし花まつり



【9月23日】  
なかやま栗まつり



【11月】  
松前町たわわ祭



【12月】  
ひろたじねんじょまつり



【2月～3月】  
ななおれ梅まつり

### ～農業・農村の基盤整備と多面的機能の維持・発揮に努めます～

○農業に欠かすことのできない地域の貴重な資源である「農地」と「水」を保全し、個性的産地の育成に向けた有効活用を図るため、ため池やポンプ、水路などのかんがい排水施設の整備に加え、樹園地の再編に向けて取り組みます。

○多面的機能支払や中山間地域等直接支払制度の取組を推進し、農地や水路・農道等の保全を図ります。



ため池の改修

### ～競争力のある個性的産地の育成に努めます～

○水稻では、高温耐性品種「にこまる」の品質向上をはじめ、売れる米づくりを支援します。

○野菜では、「レタス」、「えだまめ」、「そらまめ」、「なす」など水田野菜の産地の拡大を支援します。また、高齢化が進んでいる中山間地域では、「夏秋トマト」、「軽量野菜（いんげん、ほうれんそう）」、「自然薯」、「キャベツ」の生産性の向上を図ります。

○果樹では、県オリジナル品種の「[愛媛果試第28号（紅まどonna）](#)」や「甘平」、「キウイフルーツ」、「くり」の高品質安定生産技術の支援により、産地の拡大に取り組みます。

○花きでは、鉢物を中心に産地の拡大や消費者ニーズに対応した品種の導入を支援します。

○畜産では、養鶏業を中心に卵の直売や6次産業化の取組を支援し、競争力のある産地づくりを進めるとともに、飼料用米を活用した経営基盤の強化を図ります。

### ～「はだか麦」産地の拡大とブランド化に努めます～

○愛媛県が日本一の栽培面積を誇る「はだか麦」は、当地域が県内有数の産地となっており、今後も品質向上と産地の拡大に努めるとともに、麦みそなど加工品のブランド化も支援します。

○当地域は県内で栽培される「水稻」や「はだか麦」の種子を生産する採種ほ場に指定されており、優良種子の安定供給を支援します。



はだか麦



#### キウイフルーツについて

キウイフルーツは、当地域が愛媛県内で最大の生産量を誇っていて、毎年12月から4月までの長い期間出荷しているよ。

ビタミンCが豊富で、甘くておいしいと高い評価を得ているんですよ。



キウイフルーツ

## (6) 久万高原ブロック (久万高原町)

### ～地域の紹介～

久万高原ブロック(久万高原町)は、西日本最高峰の石鎚山の麓に位置し、標高は400～800メートルの準高冷地で、面積は約584平方キロと県内最大です。

主な産業は農業と林業で、四国の軽井沢と呼ばれる夏季冷涼な気候を生かし、「夏秋トマト(中四国1位)」、「夏秋ピーマン(県内1位)」、「久万高原清流米(1等米比率県内1位)」などを栽培しています。また、畑野川地区の観光農園(りんご、ぶどう、ブルーベリーなど)や、美川・面河地区のお茶、昔から地域で传承されている「とうもろこし」、「豆類」、「雑穀」など特色のある農業が営まれています。



夏秋トマト



夏秋ピーマン



久万高原清流米



雑穀(黒モチトウモロコシ)

### ～多様な新規就農者の確保と育成に努め、町外からの就農移住者を増やします～

○就農希望者に対し、町の農業研修制度を活用して、トマト栽培や経営管理等の研修を支援します。また、就農後も、関係機関が一体となり栽培や経営管理の安定化に向けた支援を続けます。

○若い新規就農者には青年農業者組織への加入を図り、その活動を通して地域内外での仲間づくりを支援するとともに、個々の栽培技術などの資質向上を図り、スムーズな地域への定着に努めます。



農作業安全講習会

### ～農業の6次産業化を進めます～

○当地域にある農畜産物の有効活用を進めるため、ブランド農産物や「雑穀」、「[媛っこ地鶏](#)」などを活用し、付加価値の高い加工品づくりに取り組みます。

○魅力ある商品の開発により地域ブランド商品としての育成を進め、交流人口の拡大や物流の促進を図り、地域経済の好循環を目指します。



農産物加工場

### ～消費者との交流を促進します～

○地域資源を生かした観光農園、農林漁家民宿、石窯ピザ焼き体験等の体験交流施設や、農産物直売所などの充実を図りながら、来町者との交流活動を促進し、地域活性化を支援します。



観光りんご園

### ～生産基盤の整備と保全管理に努めます～

○生産性の向上や農作業の省力化等を図るため、農地や水路・農道等の生産基盤の整備を進めます。

○鳥獣害対策や多面的機能支払、中山間地域等直接支払制度の取組を推進し地域資源の整備と保全管理に努め、集落機能の維持・活性化を図ります。



耐久性畦畔による棚田整備



協働作業による水路補修

～野菜主力品目の施設整備を進め、産地の維持強化を図ります～

- 「夏秋トマト」は、老朽化しているハウスの更新を順次進め、生産量と高品質の維持に努めます。
- 「夏秋ピーマン」は、施設経費が少なく高齢者でも取り組める露地野菜の主力品目として推進し、自動かん水装置の導入による管理作業の省力化と生産量・品質向上を図ります。



ピーマンの自動かん水装置

～安全・安心な農産物の栽培をより一層進めます～

- 「久万高原清流米」及び「夏秋トマト」は、JA 出荷の全農家が**県特別栽培農産物「エコえひめ」**と「全農安心システム」による環境にやさしい農産物の生産に取り組んでおり、農家と関係機関が一体となった安全・安心な農産物づくりをより一層推進します。
- 「夏秋ピーマン」は、大半の栽培農家が**エコファーマー制度**による化学肥料や農薬の低減技術を導入・実践しており、安全・安心だけでなく環境にやさしい農業をより一層推進します。



～高齢化に対応した品目の栽培を進めます～

- 当地域は県内で最も高齢化が進み、高齢者にも取り組みやすい農作物の導入が望まれているため、「白ねぎ」や「薬用植物（ミシマサイコ等）」、「とうもろこし」、「豆类」、「雑穀」などの軽量作物の栽培を進め、高齢化に対応した農業経営を支援します。



スナップエンドウ

ミシマサイコ(根)

～地域資源を活用した畜産業の振興を図ります～

- 四国カルスト牧場を利用して、放牧による肉用繁殖牛の繁殖管理を行い、経営基盤の強化を図ります。
- 「**媛っこ地鶏**」では、地域特産品の未利用資源（茶、トマト、米）を飼料として給与し、特色ある鶏肉を生産するなど、地域資源を活用した畜産業の振興に取り組みます。



久万高原育ち 媛っこ地鶏



軽トラ市(毎月)



かかしコンクール(10～11月)



秋の収穫祭(10月)



久万林業まつり(10月)



久万高原町  
イメージキャラクター

ゆいほう

桃太郎トマトについて

久万高原の清らかな自然で育った「桃太郎トマト」は、高品質で栄養が豊富。  
当地域は「夏秋トマト」の生産量が中四国 1 位で、安全・安心な栽培に取り組んでいるんですよ。



桃太郎トマト

## (7) 大洲喜多ブロック (大洲市、内子町)

### ～地域の紹介～

大洲市と内子町からなる当地区は、海岸部、盆地状の平坦部、中山間部と多様な地形と気象条件を有する地域です。海岸部では「かんきつ」、平坦部では、水稻や野菜、中山間部では落葉果樹など、自然条件を活かした多種多様な農業が営まれています。

また、農業と豊かな自然や歴史・文化を合わせた地域づくりを目指し、環境保全型農業やグリーン・ツーリズム、地産地消なども熱心に取り組んでいます。

#### <自慢の農産物>

減農薬減化学肥料農産物（米、トマト、すいか）、きゅうり、かき、くり

#### <特徴的な農産物>

観光農園（なし、ぶどう、もも、いちご）、葉たばこ、薬用作物

#### <主な農産物>

はくさい、ピーマン、みかん、キウイフルーツ、酪農、肉用牛、養豚、しいたけ 観光なし園



### ～多様な農産物で所得のとれる産地を目指します～

当地域特有の多様な地形、気象を活かした適地適作を基本とした産地づくりを進めます。既存作物の産地堅持はもちろんですが、収益性の高い新たな品目の産地化に取り組みます。

○水稻は、「にこまる」や飼料用米に取り組んでいきます。

○果樹は、「[愛媛果試 28 号 \(紅まどんな\)](#)」、「青系ぶどう」等の導入、「キウイフルーツ」の生産拡大を進めます。

○野菜は、「葉たばこ」の代替作物として推進している「冬至かぼちゃ」の産地化を進めます。

○安心・安全な農産物生産を目指し、今後も、水稻や野菜の減農薬減化学肥料栽培を進めます。

また、これら農産物の学校給食への提供や地域ブランドとして新たな販売に取り組みます。

○畜産は、更なる家畜改良増殖に努め、生産性の高い畜産物を生産し、産地化を図ります。

○所得向上には省力で効率的な生産基盤が不可欠です。生産性の向上につながる基盤整備や国営開発畑地などにおける老朽化した農道や水路などの再整備を進めます。



おいしい米づくり

### ～県内一の夏秋きゅうりの生産拡大～

栽培面積は 12ha、県内 1 位の出荷量を誇り、国の指定産地となっています。新規栽培者も増えており、野菜の主力品目として、一層の生産拡大を目指します。

○栽培経験の浅い生産者を中心に栽培技術のレベルアップを図ります。

○耐病性に優れ、収量の高い品種への更新を進めていきます。

○労働条件や消費動向に合わせた品種や作付け時期を選定し、所得の向上を図ります。



県内一の夏秋きゅうり

### ～のばせ、日本一のくり産地～

「くり」の JA 単独出荷量は全国 1 位で、高い市場評価を得ています。今後も、全国にアピールできる産地づくりを進めます。

○新植による面積の拡大と老木園の改植による若返りを進め生産量アップを図ります。

○「筑波」、「銀寄」など「愛」あるブランド登録品種の品種別出荷を拡大し、価格アップを図ります。

○さらに、地域内で加工商品の開発や販売に取り組み、当地域の知名度アップを図り、活性化につなげます。



日本一のくり

### ～県内一の養豚産地維持拡大～

愛媛は近畿地方から中四国地方においての最大の養豚県。その中でも大洲喜多は、県内一の産地となっています。

○団地の集約化と規模拡大を図り効率性の高い養豚経営を推進します。

○母豚の多産系 LW（ランドレース・大ヨークシャー）種への家畜改良を積極的に進め、生産性を高めます。

○飼料費低減のためエコフィードの積極的利用を推進します。

○飼養衛生管理を徹底し、疾病発生の予防に努めます。



県内一の養豚産地

### ～労働力不足を解消する農作業支援体制を整備し、地域に貢献する人材育成を進めます～

防除、摘果、収穫、せん定など労働力不足の農家が必要とする人材を地域内外から確保し、必要な時期に円滑に派遣できるシステムを構築することにより、農業者が安心して規模拡大や経営改善に取り組めるようにします。

また、農家の後継者だけでなくこうした人材をはじめ農家以外から新規参入する支援体制を充実させ、新規就農者を一人でも多く確保し、農業生産だけでなく地域活性化の核となる人材を育てます。

### ～農地を有効に活用し地域の活性化に取り組みます～



地域ぐるみで農道を管理

当地区には、国営開発農地の畑や樹園地をはじめ平坦部の水田、中山間部の果樹園などの生産性の高い農地が、また、山間には風光明媚な棚田など守るべき農地が多くあります。

意欲ある農業者や参入企業、集落営農組織への農地集積、また、地域ぐるみの協働活動による農地や水路の保安全管理など、集落の実状にあった農地利用や施設管理を推進し、集落機能を維持する活力ある地域づくりを進めます。

### ～多彩な農産物を活かした加工商品販売による地域振興に取り組みます。～

「くり」、「かき」、「ゆず」、「もち麦」、「こんにゃく」、「じゃばら」など地元農産物を使用した加工品開発や販売に地域が一体となって取り組んでいます。最近では、「チーズ」、「なし」、「もち」など多くの農産物の商品開発に積極的に取り組む農業者が増えています。

今後も、引き続き、商品開発のための施設整備や技術習得、販売方法の確立に取り組み、当地域ならではの商品を県内外に宣伝販売しることにより、産地としてだけでなく観光面も含めた知名度と地域全体の所得のアップを図ります。



商品開発検討会

### ～農と自然や歴史・文化が融合した生活空間を守り、都市との交流を広げます～

当地区は自然豊かで歴史も古く、文化遺産も数多く残され、また、肱川の鶺鴒や「いもたき」、小田川の筏流しなど地区独自の伝統行事も盛んです。

こうした文化や地域資源を活かした体験型農家民宿や「ぶどう」、「なし」など観光農園の活動や情報発信を拡充させます。また、生産者自らが直接消費者へ販売する産直市（「[内子フレッシュパークからり](#)」や「[たいき産直市愛たい菜](#)」等）の更なる魅力づくりを行い、都市住民との交流を進めながら所得の向上を図ります。



にぎわう産直市

### 大洲喜多地区の生産性を高めた国営農地開発事業



広々とした開発農地

昭和50年から63年に、生産性の高い新しい営農による中山間地域の開発と地域振興等を目的に農地開発に取り組み、65団地440haのまとまった農地を造成しました。開発農地には、野菜、葉たばこ、果樹、桑などを作付け、農業生産に貢献しています。

このように、当地区には、優良な農地が多くあり、農業を営む環境に大変恵まれておりますので、農業をしたいとお思いの方は、ぜひ、お越しください。



## (8) 八西ブロック (八幡浜市、伊方町)

### ～地域の紹介～

八西地区は、佐田岬半島を中心とした八幡浜市と伊方町からなり、温暖で日照に恵まれた急傾斜の段畑農村地域です。耕地面積の約 9 割が果樹園で、5 つの太陽【太陽の光・海から反射する光・段々畑の石垣から反射する光・マルチシートから反射する光・園内道から反射する光】の恩恵を受け、「うんしゅうみかん」、「清見」など全国屈指の素晴らしいみかん産地が広がっています。

また、当地区の園地は南予用水事業の進展により、農業・生活用水が確保され、農業生産基盤の整備や経営の合理化・安定化が図られています。

これら先人の努力と地元農家をはじめ関係機関の連携により、全国有数の産地を形成する八幡浜市においては、農業就業者の平均年齢が全国平均に比べ約 5 歳若く、愛媛県で一番となっています。また、40 歳未満の新規就農者数においても、県内の約 2 割を占めるなど、若いパワーが育ってきています。



日本一のみかん産地風景

### ～みかん生産日本一の産地の維持・発展に取り組めます～

J A にしうわは、「うんしゅうみかん」の売上 100 億円、中晩柑の売上 50 億円を目標にしており、消費者、市場関係者に信頼される産地となるよう、目標達成に向けて連携活動を行っています。

#### ○生産基盤の整備と維持・発展

果樹園地面積 3,820ha の内、多目的スプリンクラーによる受益面積が約 7 割を占め、スプリンクラー営農による集落営農を実現しています。

かんきつ産地の維持・発展のためには、これらの施設の老朽化対策、園内道整備や地域の新たなニーズに対応した施設導入といった生産基盤の整備が必要であり、園地の若返りなど、助成事業の充実を図りながら、引き続きかんきつ王国を支えていきます。

また、地域ぐるみで農地や水路・農道・かんがい施設などの適切な保管理に取り組み協働活動を支援していきます。



スプリンクラーによる散水



各共選のブランドが勢揃い

#### ○優良園地の確保

農地流動化の推進をするため、共選や集落単位に関係機関で組織する農地流動化組織の活動を行うことにより、優良園地の維持や集中化を図り、産地の強化、発展に寄与していきます。

#### ○個性化商品による産地の牽引

各共選では、平成 12 年頃から特選品を中心にブランドとして商品開発を積極的に行っています。化粧箱のデザインにも特長的なものを採用して、産地のイメージアップを図っています。

### ～次代を担う農業者の育成に努めます～

地域農業を支える優れた農業経営者の確保育成、新規就農者の定着を図るとともに、担い手への農地集積や組織育成など関係機関が一体的に取り組んでいます。

- 就農初期の農業者に対し技術習得の機会として、「マングリンスクール」や「シトラス講座」を開催し、早く一人前になるよう育成を図っています。
- 青年農業者の組織活動として首都圏に出向き、「西宇和かんきつ産地直送出前事業」に取り組むほか、各地区で地域課題を取り上げたプロジェクト活動を支援し、産地振興に役立てていきます。
- 家族一人ひとりが働きやすい環境をつくるため、家族経営協定を推進しています。協定を締結した農家によるネットワーク組織では、研修会や情報交換などを行っており、さらに充実を図っていきます。



青年農業者による出前授業

### ～西宇和みかん支援隊による担い手・労働力の確保を進めます～

平成26年5月に八西地域農業振興協議会を推進母体として「[西宇和みかん支援隊](#)」を設立し、各種援農関係事業を実施する担い手・農作業支援システムを構築しています。

- 3地区のモデル集落で、集落全体が1ターンの受入れから育成、定着までを、機能的に実施するシステムに取り組んでいます。
- みかんの里アルバイト等の既存事業に加え、お手伝いプロジェクトや企業・団体・大学等と連携し、多様な労働力を確保しています。  
また、都市部から援農者を確保するための、マイクロバス運行や廃校利用による宿泊施設「マングリン」を整備し、働き手の受け入れがスムーズにできるようにしていきます。



大学と連携した農作業支援

### ～6次産業化や農商工連携を推進して地域振興を図ります～

消費者との交流拠点整備により、生産した農産物の加工販売に取り組む農業者が増えています。

- 農家の所得向上をめざし、地域ならではの商品開発と販売戦略で当地域を県内外にPRし、観光面も含めた知名度アップを図ります。



#### みかんのPR活動を積極的に実施

- 平成22年より首都圏を中心にアニメキャラクターの「クレヨンしんちゃん」を活用した「にしうわみかんキャンペーン」を行うことで販売促進に繋がっています。
- 歌う生産者「フレッシュレンジ」によるみかんPRのCD発行やオレンジデーコンサートなど消費者に向けた活動を展開しているんですよ。

## (9) 西予ブロック (西予市)

### ～地域の紹介～

西予ブロック(西予市)は県西部に位置し、温暖な宇和海に面した明浜・三瓶地区と県最大河川である肱川の上流域で山間盆地の宇和地区、四国山地まで広がる中山間地の野村・城川地区にて形成されています。地域では海拔0mから1,400mと広範囲で起伏に富んだ立地条件を生かし多種多様な農作物が生産されています。

水稻(宇和・野村・城川)、麦・大豆・そば(宇和)、かんきつ(明浜・三瓶)、くり・ゆず(城川)、畜産(宇和・野村・城川)、いちご(宇和)、きゅうり(野村)、トマト・ピーマン(城川)が主な産地です。地域は、貴重な地質や地形、歴史、文化、生態系など、数多くの地域資源が存在しており、[四国西予ジオパーク](#)に認定され、伝統的な茶、葉たばこ、養蚕も行われています。県オリジナルブランド品種も積極的に導入され、いちごの「[あまおとめ](#)」、「[紅い雫](#)」や酒造好適米「[しずく媛](#)」の県内一の産地となっています。

### ～多様な水田農業の推進に努めます～

宇和地区を中心に、ほ場整備が進み、南予最大の穀倉地帯となっています。しかし、将来的に主食用米の需要が減少することを踏まえ、主食用米以外の酒造好適米、加工用米の産地化や管内畜産農家との連携を強化し、飼料用米、稲発酵粗飼料の栽培を推進し競争力のあ  
る営農へ転換します。主食用米については、西予ブランド米として自信を持って提供できるよう、地域ごとの環境に適した良食味品種の選定を行い、県認証農産物として取り組んできた環境と調和したものづくりをさらに進め、ブランド米として差別化を図ります。さらに裏作の麦・そばや輪作の大豆・野菜等に水田をフルに活用していくため、整備済み水田の区画拡大や用水パイプライン化、土壌地下水位を自在に管理できる施設の整備などにより、水田の汎用化を進めます。



宇和町永長地区 1.2ha 区画

### ～魅力的なかんきつ産地づくりに取り組みます～

宇和海に面した明浜・三瓶地区は、地域全体が南傾斜面であるため、みかん栽培には最適な地形です。海からの潮風が実をひきしめ、石垣からの太陽の反射がおいしい「みかん」を作りだします。地域では、2ヶ所の共選と有機農業団体が中心となり、それぞれ特徴ある「みかん」を生産しています。「みかん」の他、「ぼんかん」(明浜)や「ニューサマーオレンジ」(三瓶)の歴史ある品種がありますが、主力品種の絞込みと品種構成の検討を行い、産地化を意識した計画的な改植を推進します。

また、樹園地の情報管理システムを構築し、収量予測や樹園地の流動化等に活用します。他地区に比べて新規就農者が多いことから、青年農業者組織活動を活性化し、技術指導を強化します。担い手への樹園地集積を図り、かんきつ産地の維持・発展のためには、かんがい施設の老朽化対策、園内道整備や地域の新たなニーズに対応した施設導入といった生産基盤の整備が必要であり、園地の若返りなど、助成事業の充実を図りながら、引き続き産地を支えていきます。



宇和海を臨むみかん畑

### ～県内一の畜産地帯の維持・発展に取り組みます～

酪農は、70年以上の歴史があり、県内生乳生産量の約50%を占め、肉用牛、ブロイラーの飼養羽数も県内一を誇り、養豚もトップに迫る四国有数の畜産地帯となっています。畜産農家では、従来の自給飼料の作付に加えて、耕種農家および集落営農組織やコントラクター組合等で生産される飼料用米・稲発酵粗飼料・稲わら(たい肥との交換を含む)などを積極的に利用しており、耕畜連携による飼料自給率向上と飼料コストの低減に取り組んでいます。今後は、本取組に必要な飼料生産体制の拡充・整備を積極的に推進するとともに、家畜改良増殖に努め、効率的で生産性の高いブランド畜産物を生産するとともに、産地の維持・発展に取り組みます。



大野ヶ原の乳牛放牧

### ～野菜の振興、いちご・きゅうり産地の強化を図ります～

「いちご」は、県育成品種の「あまおとめ」、「紅い雫」の県内一の産地です。2団体がJGAP認証を取得、有利販売の第一歩となる生産履歴記帳を徹底し、安心安全ないちご生産とファンづくりに努めます。「きゅうり」は、中山間地の露地栽培を中心に40年以上の歴史があり、新鮮で日持ちがよいと関西市場で高い評価を得ています。共同選果機が利用可能な主力品目として「トマト」・「なす」・「ピーマン」とともに労働支援体制の整備や後継者、新規就農者の確保を目指します。



いちご「紅い雫」

### ～中山間地の果樹振興、くり・ゆず産地の強化を図ります～

「くり」は県内有数の産地で、残留農薬分析、樹勢、結実など厳しい園地審査をクリアした資格取得指定園地のみが生産が可能な「奥伊予特選栗」の銘柄があり、今後割合を増やし、適地への新植や後継者の育成、作業技術の継承を図り、くり産地の持続的発展を目指します。

「ゆず」は中山間地で着実に生産を拡大している品目です。主力は業務用で、地元や県外加工業者で搾汁し冷凍保存され、「しょうゆ」や「ポン酢」、「ユズ茶」などに加工されます。今後は、栽培技術の向上を図り、品質レベルの高い生果用へシフトするとともに有望品種（とげ無ゆず）の導入を推進します。

### ～鳥獣害対策と薬草の産地化を目指します～

依然として農作物の鳥獣被害は多く、集落ぐるみで、侵入防止柵の整備と捕獲の組み合わせによる効率的な被害防止に努めています。捕獲については、農業者自らによる狩猟免許の取得を奨励し、自ら対策が出来る農業者の育成に努めており、確実に捕獲するため、遠隔監視型捕獲システムによる捕獲を推進しています。また、葉たばこ廃作農家対策として導入された薬草（ミシマサイコ、サンショウ）は、栽培技術の習得により急速に栽培面積を増やしており、獣害被害もないことから荒廃農地対策として有効であり、安定生産と産地化を目指します。

### ～“伊予生糸”の産地復活プロジェクトに取り組みます～

かつて隆盛を誇った愛媛シルクの復活に向けて、また伊勢神宮の式年遷宮の御用生糸で使用されるほど品質の高い伊予生糸の生産を継続するために、西予市野村を中心とした西日本随一の養蚕産地を維持し、繭・伊予生糸の生産量の増加に取り組むとともに、生糸の新たな需要も開拓します。また、昨年成立した「地理的表示法（27年6月施行）」を活用し、“伊予生糸”ブランドを復活・定着させます。



伊予生糸（いよいと）

### ～多様な担い手の育成・支援に努めます～

西予農業の中心的担い手として個別認定農業者を位置づけ、農地集積や規模拡大を支援します。次に専門的農業経営を展望しづらい地域では、集落営農組織を担い手として位置づけ、条件を満たした集落営農組織の法人化を積極的に推進します。また、新たな担い手として幅広く新規就農者を育成・支援します。さらに直売所に参画する高齢生きがい農業者や加工部門で活躍する女性起業家等の多様な担い手を育成・支援し、西予総活躍農業を目指します。

#### せい坊の農コラム

#### 伊予生糸（いよいと）と養蚕

明治期より南予で生産されていた伊予生糸は、地場産業として南予の近代化に大きく貢献し、エリザベス女王2世の戴冠式ドレスや伊勢神宮の式年遷宮御用糸に使用されるなど、現在でも高品質な生糸として注目されており、県内初の地理的表示（GI）農産物として登録されました。（登録日平成28年2月2日）

生糸の原料となる繭を生産する養蚕農家は、昭和初期に5万戸もありましたが、今では11戸にまで減少しており、蚕の餌となる桑畑も珍しくなりました。今でも西予市野村シルク博物館が中心となって、伝統ある伊予生糸の製法を守り生産を続けているんですよ。



## (10) 宇和島ブロック (宇和島市)

### ～地域の紹介～

宇和島市は三方を山に囲まれ、西はリアス式海岸の宇和海に面しています。水田は総耕地面積の27%、樹園地は67%と多く、特に、沿岸斜面には全国でも有数のかんきつ産地が形成されています。

今から約220年前、宇和島市吉田町立間の加賀山平次郎氏が土佐より導入した1本の苗木が、愛媛における「うんしゅうみかん」のルーツと言われ、現在では栽培面積約1,600haで、約26,000tが生産されています。特にお歳暮・高級贈答用品種の「南柑20号」は、市内吉田町の愛媛県みかん研究所(旧果試南予柑橘分場)で育成命名され、当管内の主力品種として定着しています。加えて、「河内晩柑」や「不知火(デコポン)」などの中晩柑品種も多く、特に「ぼんかん」の生産量は全国一を誇っています。

水稲は作付面積の約70%を「コシヒカリ」の早期栽培が占め「みま米」ブランド等、県内有数の良食味米産地となっています。野菜では「きゅうり」、「なす」、「しゅんぎく」など高収益品目や契約栽培による「加工用キャベツ」にも取り組んでいます。また、遊子水荷浦の段畑等で栽培される「早掘ばれいしょ」が有名です。

水田地帯では集落営農の持続性を図るため、4集落で農事組合法人が設立されており、水稲作の共同栽培や大豆の集団転作などに取り組んでいます。



宇和海に面したかんきつ園地

### ～かんきつの周年出荷体制(露地栽培)の確立を目指します～

極早生温州は全国有数の生産量ですが、消費者志向に合わないため優良な中晩柑品種に改植を勧めます。また、冬季に寒害の影響が少ない地域では、年明けに収穫・出荷する「ぼんかん」(1月～2月出荷)、高品質果実の「せとか」(3月出荷)、「不知火(デコポン)」(2月～3月出荷)、「甘平」(2月出荷)、「南津海」(4月～5月出荷)などの生産拡大を行い、農家所得の拡大と「かんきつ」の周年出荷体制を目指します。



うんしゅうみかん(南柑20号)



赤色が特徴のブラッドオレンジ

平成15年頃から、地球温暖化に対応するため、生産を推進した「ブラッドオレンジ」は、現在栽培農家約400戸、栽培面積26ha、生産量約250tと年々増加しており、JAえひめ南や地元の食品会社等と連携した結果、加工品の売上も好調で、更なる生産拡大を推進します。

今後、適地適作を基本に、温暖化により増大した隔年結果対策(樹冠上部摘果等)、急傾斜地での収穫から出荷調整段階における運搬(機械化体系)や栽培面(低樹高栽培)での省力・軽労働化対策を進め、次代へとつながる営農体制を確立します。

### ～特色ある産地づくりにより、経営の安定化を目指します～

管内の早期コシヒカリ栽培は、[エコえひめ特別栽培農産物等](#)の環境に優しい栽培が年々増加しています。また、近年、集約的で高収益が期待できる「きゅうり」、「なす」、「しゅんぎく」や価格が市況に左右されない契約野菜(加工用キャベツ等)は、若い栽培者が増えており、高級和菓子メーカー(株)源吉兆庵と連携した加工用果樹(かき、びわ)の作付も拡大しています。

今後は、主食米だけでなく新規需要米や水田輪作野菜等による水田の有効利用の取組や、水稲・野菜の育苗センター、各品目に応じた集出荷体制の整備等を進め、特色ある産地づくりによる経営の安定化を目指します。

畜産については、耕種農家と連携のもと、地元の豊かな自然で育った飼料用米や稲発酵粗飼料の利用拡大を図ることにより、一層安心して提供できる畜産物の生産に取り組み、地域の環境に調和した共存型の畜産経営を推進します。

### ～担い手が農地を守り経営を安定させます～

水田地帯では、農業者の高齢化により農地維持が困難となっており、集落営農組織や大規模経営を目指す法人等への農地中間管理事業等による農地集積を図り経営の安定を目指します。また、「[人・農地プラン](#)」により集落営農を目指す集落については組織結成を支援します。

かんきつ地帯では、収穫時期を中心とした多忙期の労働力不足が進んでいるため、安定した雇用体系のシステム化を図り労働力確保を実現させます。

管内全域で、野生鳥獣による農作物被害が問題になっており、侵入防止対策や捕獲による被害軽減を図り、安心して農業経営が営める環境づくりに努めます。



大型機械による水稻収穫

### ～新規就農者の早期定着と新たな担い手創出を目指します～

支援センターを窓口として、就農希望者の個別相談を随時実施し、継続的な情報提供や各種制度（青年就農給付金等）の利活用で新規就農へ向け支援します。就農初期青年へは、経営や技術のスキルアップのためのニューファーマー講座を開催し、円滑な経営発展と早期定着を図ります。

また、管内の若い農家女性の就農率アップへ向けた「農業女子ワークショップ」や次代を担う学童対象の「農業講座」を開催し、管内農業の魅力を発信することで、多様な農業の担い手の確保・育成に努めます。

さらに、6次産業化やグリーン・ツーリズムなど高付加価値型農業経営を推進します。



就農初期青年農業講座

### ～農地の保全と基盤整備で地域農業を支えます～

優良農地の荒廃を防止するため、地域ぐるみで多面的機能を備えた農地等の保全管理に取り組む協働活動を支援します。

水田地域においては、区画整理や用排水路の整備、老朽化したため池の改修を推進し、農地の有効利用・保全に努めます。

樹園地において、南予用水をはじめとする既存のかんがい排水施設については、長寿命化等の保全対策を実施し農業用水の安定確保に努めます。また、末端施設（スプリッター）の再編整備を推進し、担い手への集積を促進します。



区画整理とため池改修



#### \*イタリアが薫るかんきつ唯一の赤い果実ブラッドオレンジ\*

インパクトのある真っ赤な果実で、赤い果肉の秘密はアントシアニンと呼ばれるワインなどに多く含まれるポリフェノールの一種です。



アントシアニンたっぷりのブラッドオレンジ

コクのある甘さ、濃厚な香り、すっきりとした酸味と豊かな風味が特徴で、「タロッコ」は生で食べても、ジュースにしてもおいしく、「モロ」はスイーツをはじめ、いろいろな加工に向く人気の品種なんですよ。

■ブラッドオレンジのホームページ  
<http://www.blood-orange.jp/>

## (11) 鬼北ブロック (鬼北町、松野町)

### ～地域の紹介～



鬼北盆地

県南部にそびえる鬼ヶ城山系の北部に位置する松野町と鬼北町は、年間の温度格差が大きい盆地型気候を生かして多様な農業経営が営まれています。

農地面積 1,740ha の内、水田が74%を占め、昭和40年代からの基盤整備等により県内でも有数の早期米地帯となり、経営面積が10haを超える経営体も育っています。

果樹では、かつて生産量が1,000tを超えた「くり」に替わり、水田転作で振興された「ゆず」が拡大し県内一の産地となっています。

また、松野町では、農地開発事業により昭和58年度に16団地111aの農地が造成され、「もも」「うめ」「茶」を推進してきました。

野菜では、「きゅうり」「なす」などの振興品目に加え、「インゲン」や「なばな」「ほうれんそう」などの生産者の高齢化に対応した軽量作物の生産拡大が図られています。

畜産は、農家数が減少しましたが、規模拡大や差別化により経営の安定が図られています。

農業就業者は、65歳以上が75%を占め高齢化が進んでおり、担い手不足が深刻ですが、直近5カ年の40歳以下の新規就農者が11人と僅かですが増加傾向にあります。

両町では、豊かな自然を活かしてグリーン・ツーリズムを推進し、農産物直売所の拡充や農家レストランの開設、農林漁家民宿の開業支援などにより、地域の活性化を進めています。

### ～次世代につなぐ優良な農地を守ります～

農業委員会、農業支援センター、第三セクター（株式会社や社団法人）、農地中間管理機構等が連携し、農地の有効活用・保全に努めます。

水田は、主食用米の需要に即した生産に努めながら、飼料用米や新規需要米など、売れる多様な米生産の振興を図ります。また、ため池の改修や用排水路の再整備を推進し、優良水田の荒廃・遊休化の防止に努めるとともに、果樹の省力栽培や軽量野菜の作付けを推進します。

さらに、地域ぐるみで多面的機能を有する農地等の保全管理に取り組む協働活動も支援します。

畑地においては、需要拡大が見込まれる加工用農産物の生産振興に向け、農地の再整備を進めます。また、荒廃農地拡大の要因となっている鳥獣被害の防止対策に取り組むとともに、獣肉資源の有効活用に努めます。



早期米（コシヒカリ）団地

### ～加工用農産物の産地育成でブランド力を高めます～

「ゆず」では、地域で育成された有望品種を普及して果汁の安定生産に努め、「餃子の王将」で知られる(株)王将フードサービスへの原材料供給を進めるとともに、オイル抽出など果皮の有効活用にも取り組みます。

また、高級和菓子メーカー(株)源吉兆庵との農産物供給協定に基づき、「くり」と「もも」の安定供給を進め、加工用果樹の産地育成を図ります。

さらに、松野町に進出した化粧品製造会社(株)プロテックス・ジャパンに、四万十源流地域で生産された安全・安心の地域産物を供給し、地域のブランド力向上により農家所得の拡大に努めます。



鬼北特産の「くり」



鬼北特産の「もも」



松野町の茶畑

### ～地域の優れた特産品を守り育てます～

歴史ある「茶」や、「愛」あるブランド産品に認定された「鬼北熟成雉」、加工用の「うめ」等について、第三セクターやJAの加工販売強化に加え作業支援の拡充を図るなど、特色のある産品の生産維持に努めます。

また、地域には3つの直売所があることから、女性や高齢者が栽培できる新鮮野菜や果物を推進するとともに、特産物を活用した加工品の開発を促進します。

### ～競争力のある農業経営を支援します～

農産物のボーダーレスが進む中で、優良経営体の法人化を進めるとともに、「人・農地プラン」に位置付けられた担い手の経営体質強化を図り、地域のモデルとなる競争力の高い経営体を育成します。

特に農地集積による大型経営体は、優良農地の引受け手として地域からの期待も大きく、各種補助事業や低利融資の活用など、関係機関が連携して経営支援活動を強化します。

また、6次産業化や観光農業など高付加価値型の農業経営を推進します。



人・農地プラン座談会

### ～多様な担い手を育成します～

農業支援センターや第三セクター等と連携し、就農支援や経営感覚に優れた認定農業者の育成はもとより、高齢化・兼業化に対応できる集落営農組織等の体制整備に取り組みます。

また、各種制度を活用して、企業等の農業参入やJA出資型法人の設立を推進するとともに、地域おこし協力隊やUターン・Iターン者の就農を促し、新たな担い手を確保・育成します。

その他、農家女性の有する知識・技術を活かし、学校や一般を対象に食文化の普及・継承を図る一方で、地域で若手の女性農業者の仲間づくりを行います。



担い手の農作業研修

### ～地域資源を活かして都市との交流を進めます～

産学官・農商工連携、住民・女性参画など知恵を結集し、豊かな自然や豊富な食材などの地域資源、農産物直売所や農林漁家民宿などの交流施設などを活かして、「鬼のまち」「森の国」ブランドづくりに取り組みます。

さらに、交流拠点の整備・拡充や、農林漁家民宿の開業支援などにより、農業の振興と都市住民との交流を進めて地域活性化を図ります。

松野町虹の森公園 <http://www.morinokuni.or.jp/>

鬼北の里GTナビ <http://www.gt-kihoku.com/>

### とげの少ないゆず「鬼北の香里」(きほくのかおり)

本県は全国第3位の生産量で、うち南予地域が9割を占める「ゆず」。とげが多いことから栽培管理の妨げとなっていますが、鬼北町で発見されたとげの少ない「ゆず」が平成25年に種苗登録されました。

果皮障害を減らすためウイルスを除去し、選抜を繰り返して、26年から苗木が供給されているんですよ。



鬼北の香里



のぶしくん



きほくん



## (12) 愛南ブロック (愛南町)

### ～地域の紹介～

愛媛県の最南端に位置する愛南町は、北は宇和島市津島町、東は高知県宿毛市と接しています。気候は、黒潮の影響を受けて平均気温が16.8℃、年間降水量は約1,900mmと温暖多雨で、海岸部では降霜がほとんど見られません。冬季は季節風が強く吹き、農作物には防風対策が必要となります。

農業では、無霜地帯の特徴を生かして、1月以降に収穫する中晩生かんきつ、特に「河内晩柑」や「甘夏」の栽培が中心となっています。「うんしゅうみかん」は、かんきつ栽培面積の4%とごく僅かで、県内では珍しい品種構成となっています。

水稲は、温暖な気象を活かした「コシヒカリ」等の早期米の生産が盛んで約89%を占めています。例年、県内でも最も早く新米が出回ります。

野菜は、冬季の温暖な気象条件を生かして、「ブロッコリー」や「そらまめ」、「セット玉ねぎ」等の冬春野菜が中心で、夏秋期は「オクラ」や「しょうが」などの生産が行われています。

その他の一次産業では、水産業は「かつお」が有名ですが、「真珠」・「はまち」・「たい」・「まぐろ」・「かき」などの養殖漁業も盛んです。林業では、高品質の備長炭がよく知られています。

農業経営は、かんきつ専作が主体ですが、水稲や野菜との複合経営、カキ養殖等との兼業経営も見られます。



空から御荘湾を臨む

### ～日本一の生産量を誇る河内晩柑のさらなる産地強化を進めます～

昭和40年代半ばに熊本県から導入された「河内晩柑」は、無霜地帯の気象条件にも合い、次第に栽培面積を増やして、今では全国生産量の約5割を占めるトップ産地となっています。

栽培や出荷方法は、出荷団体や個人によって異なりますが、大きく2つの体系に分けられます。3月に収穫した後に倉庫で貯蔵し、4月から6月下旬にかけて出荷する「貯蔵出荷体系」と5月下旬から8月にかけて木成りを順次収穫し出荷する「木成り栽培体系」です。前者は糖度の高い果汁がたっぷりなコクのある果肉を味わえ、後者は適度に水分が抜け、パリッとした食感でさっぱりとした甘さの果実となります。



たわわに実った河内晩柑

また、加工品も豊富で、ジュースの他にポン酢、ゼリー類、菓子、ピネガー等が生産者や商工団体等との連携で開発されています。今後は様々な効用が期待されている機能性成分を活用した商品開発も進めます。

全国的にも増産傾向にある「河内晩柑」ですが、関係者が一体となって落果・果皮障害の防止や樹形改善等進めて品質向上を図るとともに、台湾の高級スーパー等、世界に向けて積極的な販路開拓に取り組み、トップ産地として歩み続けます。

### ～品質向上と長期出荷でブロッコリーのブランド力を高めます～

早期米の裏作として始まった「ブロッコリー」は、共販体制の整備や育苗・植え付け作業の機械化により、労働負担が軽減されて生産面積を拡大してきました。また、作型の組み合わせで10月から翌年6月までの長期出荷が可能となり、収益性も安定しています。

平成27年度からは、収穫後の選別・調整・箱詰の全てをJA集出荷施設で行い、更なる農家の労働力削減に努め、今後も生産拡大と品質向上を図り、ブランド力を高めていきます。

愛南町の野菜生産のけん引役として、若い生産者を増やし、老朽化した集出荷施設の整備や面積拡大を進めて活気ある産地を目指します。



ブロッコリー畑

### ～特徴ある農業経営を応援します～

「ねぎ」の大規模周年栽培を主体に効率的な生産と販売で伸びる法人経営、「葉たばこ」の代替作物として定着した「しょうが」、県の共進会で度々最優秀賞を受賞している「和牛子牛」生産、町内産飼料用米で育った「**媛っこ地鶏**」、直売所で引っ張りだこの「トマト」や「いちご」等、他にはマネのできない特徴のある経営があります。今後も個別の技術及び経営相談を通じて、より一層の経営改善を応援します。



媛っこ地鶏

### ～意欲ある担い手の育成に努めます～

#### ○新規就農者

青年就農給付金の後押しもあり、若い就農者が増えています。しかし、まだまだ技術や経営管理の面で未熟な農業者も多く、様々な支援が必要です。そのため農地中間管理事業を活用した農地の斡旋、各種の研修会や資金相談を実施します。「かんきつ」は、新植から収穫までの未収益期間の所得確保策として、引退農家からの既存園地の継承等にも力を入れていきます。

#### ○認定農業者&農業法人

管内には、「かんきつ」や施設野菜で、積極的な経営を展開する認定農業者や法人経営が数多く存在します。自らの経営充実に努め、多くの雇用労力を導入するとともに、新規就農希望者を受け入れるなど、地域での役割は年々拡大しています。各種補助事業の活用、雇用労力確保対策、低利資金利用、新たな園地造成等を通じて、経営改善を支援していきます。

また、鳥獣害対策については、各種補助事業を活用した防護柵の設置や銃猟免許取得を推進して被害低減を図り、安心して営農に取り組める環境づくりに努めます。

### ～グリーン・ツーリズム活動を積極的に進めます～

平成18年に**愛南グリーン・ツーリズム推進協議会**を設立し、農林漁家民宿の拡充や町内外の各種イベントへの参加、各種団体の体験受入、「河内晩柑」の販売促進や加工品（スイーツ）開発等に意欲的に取り組んでいます。

今後も、海の幸、山の幸に恵まれた愛南町の特産物や加工品を幅広くPRして、人情豊かな土地柄を全国に知っていただけるよう、積極的な情報発信と交流促進に努めます。



愛南グリーン・ツーリズムフェスタ

### ～生産基盤整備により特産品の産地強化を支えます～

大久保山ダムを水源とするかんがい施設やため池等の農業用水施設において、長寿命化や改修を進めることにより、安定した農業用水の供給を確保し、特産品などの産地づくりを支えています。

また、地域ぐるみで農地や道水路などの保全管理に取り組む協働活動を支援し、担い手育成の環境づくりを進めます。



改修されたため池

なーしくん  
のコラム



### 河内晩柑の由来と名称について

文旦の血をひく偶発実生（自然に落ちた種や捨てられた種から親を超える特性を持つ偶然発見された品種）で、熊本県熊本市河内町で発見されました。品種名は、発見場所と晩生の柑橘ということから名付けられました。

商品名としては、愛南町内でも生産団体等の違いによって、商標登録されている美生柑（JA えひめ南マルエムフルーツアイランド取扱）や宇和ゴールド（JA えひめ南味楽共選取扱）の他、御荘ゴールド等の名称で販売されています。

愛南町では、町村合併以降の平成19年から「愛南ゴールド」を統一した名称として使っているんですよ。

